



となん

【学校教育目標】

- 【知】自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- 【徳】豊かな心を持つ生徒
- 【体】健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェーブの登録商標です(下地中学校HPへ)

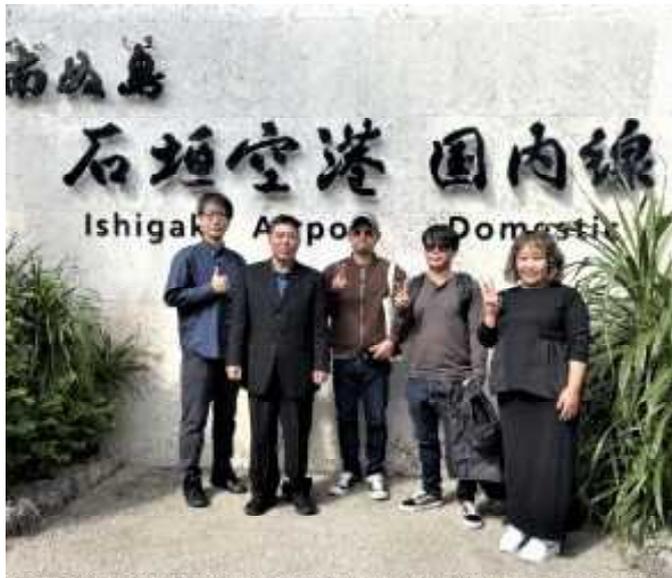
1/24(土)・25(日)

第67回沖縄県PTA研究大会 八重山大会

PTA役員と行ってきました!

1/24(土)・25(日)の両日、みだしの「第67回沖縄県PTA研究大会 八重山大会」が石垣市総合体育館メインアリーナで開催されました。

下地中学校からの参加者は、私とPTA役員4名(津嘉山健会長、平良和樹副会長、友利伸一副会長、島尻りか書記会計)の5名でした(上地庸一さんは沖縄県PTA連合理事として参加していました)。



次に、本大会のスローガンとメインテーマを紹介します。

【大会スローガン】

ひとつひとつ・進もう・変わろうPTA
～多様性のチカラで未来へ繋ごう～

【メインテーマ】

- 家庭・学校・地域が一体となり、「新しいカタチ」の学びの場づくりを推進する。
- 防災に対する意識を高め、生命(いのち)を大切にすPTA活動を進める。
- 子どもたちが安全で安心できる教育環境を作り、豊かな人間性を育む教育を推進する。

「初日 1/24(土)」の大会の様子を紹介します。

13:00 受付

13:45 開会式



14:30 研究協議 I 人権について

◎講師:琉球大学法科大学院長・教授 矢野恵美

「性の多様性の尊重はなぜ必要か」

学校ではLGBTQの授業を行うが、当事者は情報不十分だと感じている。先生にも相談できない状況がある(差別的・否定的発言、誤った理解)。

学校での困りごと。

保護者との困難経験87.6%

大人の正しい知識、人権意識をもつことが子どもたちを救う。日本の現状は、法律も追いついていない(同性婚すら認められていない)。

琉球大学では「RYUKYU PRIDE」を掲げ、性の多様性尊重を啓発している(学長も女性)。

「セクシュアリティについて」

5つの要素→法的な性、心の性、身体の性、表現する性、好きになる性

一般的には、性的多数者、セクシャルマジョリティと呼ばれる。

「学校生活とセクシュアリティ」

自認する性別でない行動を強要される「○○さん」付けで呼称、制服や体操服の選択肢を設けておく。

沖縄県の制度:美ら島にじいる宣言、パートナーシップ制度など

全米の若者のホームレスの40%がLGBTQ。原因は保護者の無理解。

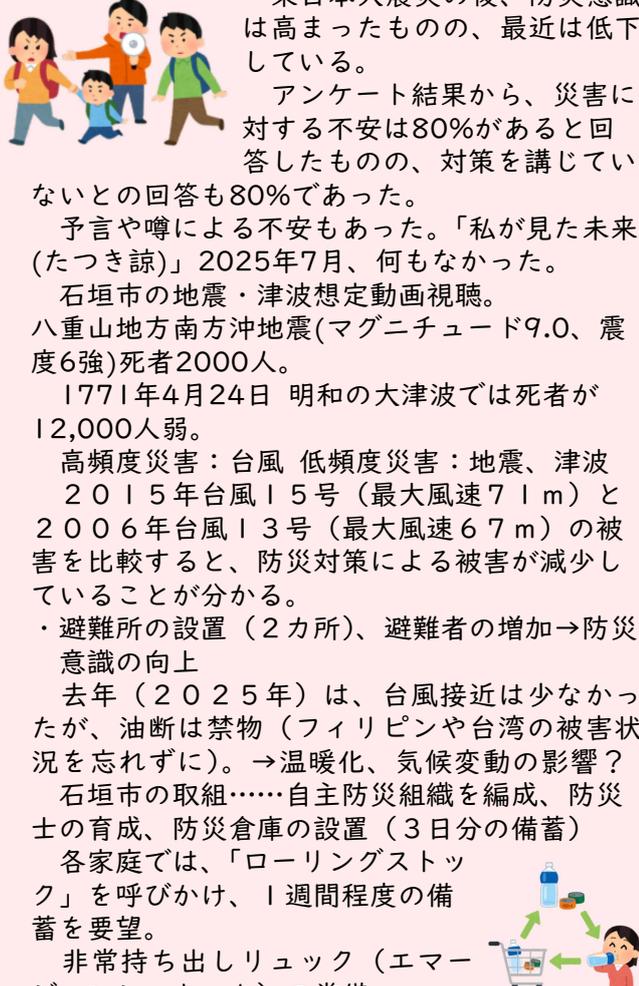
☆生きづらさを取り除く安心安全な居場所づくり。

☆カミングアウトを受け入れられる関係づくり。

1/24(土)・25(日)
第67回沖縄県PTA研究大会
八重山大会
 PTA役員と行ってきました!

「初日の大会の様子」の続きです。
 15:55 研究協議Ⅱ 防災について

◎講師：石垣市防災危機管理課
 防災アドバイザー 大濱 武
 「防災について ～災害から命を守れますか～」
 東日本大震災の後、防災意識は高まったものの、最近では低下している。
 アンケート結果から、災害に対する不安は80%があると回答したものの、対策を講じていないとの回答も80%であった。
 予言や噂による不安もあった。「私が見た未来(たつき諒)」2025年7月、何もなかった。
 石垣市の地震・津波想定動画視聴。
 八重山地方南方沖地震(マグニチュード9.0、震度6強)死者2000人。
 1771年4月24日 明和の大津波では死者が12,000人弱。
 高頻度災害：台風 低頻度災害：地震、津波
 2015年台風15号(最大風速71m)と2006年台風13号(最大風速67m)の被害を比較すると、防災対策による被害が減少していることが分かる。
 ・避難所の設置(2カ所)、避難者の増加→防災意識の向上
 去年(2025年)は、台風接近は少なかったが、油断は禁物(フィリピンや台湾の被害状況を忘れずに)。→温暖化、気候変動の影響?
 石垣市の取組……自主防災組織を編成、防災士の育成、防災倉庫の設置(3日分の備蓄)
 各家庭では、「ローリングストック」を呼びかけ、1週間程度の備蓄を要望。
 非常持ち出しリュック(エマージェンシーキット)の常備



講話の後、12名のグループで編成された研究協議で2つの協議題「①家庭での防災対策」「②災害から子どもたちの命を守る対策」について話し合いました。

災害用伝言ダイヤル 171
 伝言録音は 伝言再生は
 ↓ 171 ↓ 171
 ↓ 1 ↓ 2
 市外局番からの電話番号 市外局番からの電話番号



最後に講師の大濱さんから、「災害時に電話が繋がりにくなるので、**災害用伝言ダイヤル『171』が有効だ**と話していました。

「2日目1/25(日)」の大会の様子を紹介します。
 09:00 受付
 09:45 記念講演とアトラクション(ウイングキッズリーダーズによる踊り)

◎講師：演出家・南島詩人 平田 大一
 「人はいつ成長するか?～桜梅桃李(おうばいとおり)の古語が紐解く新思考の学びの場～」
 ☆現代版組踊の意義とは、26年前「肝高の阿麻和利」地域に根付く持続可能な取組、「びっくり箱をつくりたい!」
 ☆アトラクション(ウイングキッズリーダーズ)
 ①オヤケアカハチテーマ
 ②ダイナミック琉球
 →笑顔で生き生きと踊る子どもたちの姿に感動、やらされ感は一切見られない。
 「大人が変われば子どもも変わる」逆に、「子どもが変われば大人も変わる」
 ☆平田さん……言葉が、メロディが降ってくる
 →ダイナミック琉球の口説(クドウチ)
 平田さんが舞台袖から見て思うこと『『ありがとう』の言葉が成長の瞬間』舞台を作る、人を作る、決して一人にしない、(そこに居てもいい)居場所づくり
 ☆自分自身の成長は、中学生の時、豆記者で東京を訪れた体験。世界を広げる、新たな自分との「出会い」
 ☆子どもたちとの向き合い方
 大人は威張らないこと。感動する心、感謝する心、挑戦する心(常にチャレンジャーであること)。大人はできるだけ多くの(真剣に関われる)出会いの場面を作ってほしい
 そうすることで「笑顔」「感謝」が生まれる
 それぞれの「桜梅桃李(おうばいとおり)」
 ☆最後にダイナミック琉球のクドウチ(口説)の(素手で太鼓を叩きながら)演奏



記念講演を受けてのグループ協議でも、2つの協議題「①あなたはいつ成長しましたか?」「②あなたの『人生を変える・人生を決めた』出会いは?」について対話をしました。

最後に講師の平田さんから、「苦手なことこそ、成長するチャンス!」との話があり、「実は『行政・子ども・舞台』が苦手だった」と言っていました。

11:45 表彰式
 ☆下地中からは、津嘉山健さんと上地庸一さんの二人が表彰されました!
 12:20 閉会式
 次回開催地区「島尻地区」



以上、大会報告といたします。



となん

【学校教育目標】

- [知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳] 豊かな心を持つ生徒
- [体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしゅう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェブの登録商標です(下地中学校HPへ)

1/25(日)
第36回
宮古島100kmワイドーマラソン
大会ボランティア

1/25(日)、みだしの「第36回宮古島ワイドーマラソン」が宮古島市で開催されました(コースマップは、次の画像です)

<https://www.waido-miyako.com/course/>

給品込み)。競技は、5:00～18:00(100kmの部、50kmの部は11:00～18:00)。

大会ボランティアに参加した生徒の集合時間は11:30(後半は14:45)。活動内容は①完走証発行係(完走証発行所に来たランナーに完走証を発行)と、②荷物整理係(荷物運搬班が運搬してきた荷物袋を体育館内の指定場所にナンバー順に並べて置く)でした。

【活動内容①】[前半 11:30～14:45] 2年生：洲鎌天太、池代球斗、藤原琉太郎、[後半 14:45～18:00]

1年生：根間莉々香、片山来弥、伊敷怜音



【活動内容②】[前半]
 3年生：上地うらら、佐久川華帆、浜比嘉優実・2年生：羽地愛美、[後半] 2年生：平良星姫、砂川和月・1年生：池村愛梨、砂川愛空、安良城琉杏

本大会の種目は「100kmの部(下地公園→伊良部大橋→宮古島一周→下地公園)」と「50kmの部(宮古特別支援学校→東平安名崎灯台→下地公園)」。会場は下地公園を発着とした宮古島市一円。参加予定人数は「100kmの部300名」「50kmの部241名」となっていました。参加資格は、18歳以上(大会当日)で各種目を完走できる体力、気力を有する者(ただし、高校生は不可とする)。参加料金は100kmの部が17,000円、50kmの部が10,000円(保険料や支



引率は、本校ボランティア担当の砂川絢音先生[前半]と、渡久知翔太先生[後半]が行いました。

完走は、両コース合計541人中352人だったそうです(ボランティアも、大変お疲れ様でした)!

1/30(金)6:45集合!

3年生「合格祈願祭」

県立高校入試まで、あと29日となりました。
 さて、県立高校への願書提出を控えた1月30日(金)早朝、3学年PTA主催の「合格祈願祭」を行いました。当日は6:45集合。保護者の皆さんには、前日から津嘉山荘に集まって縁起物の料理の仕込みを行ったり、当日も6時前から供物の準備をしたりと、大変お世話になりました。



こうした苦勞の甲斐もあって、(気温は冷たかったものの)雨も降らずに「合格祈願祭」を執り行うことができました!



祈願祭の後は、台湾交流室に移動して縁起物の料理を食べました。



今回の「合格祈願祭」の成功に尽力なさった3学年PTAの皆さん、島尻りかさん、本当にありがとうございました。



☆3校時(3年A組)
 「足袋の季節」
 D-(22)よりよく生きる喜び

☆4校時(2年B組)
 「スカイツリーにかけた夢」
 A-(5)真理の探究、創造



☆5校時(2年A組)
 「異なり記念日」
 C-(14)家族愛、家庭生活の充実

※5校時は全職員が参観できるよう、公開授業の2A以外の生徒を下校させて実施しました。下地小学からは美和子校長と2名の先生に参加していただき、小中の連携した研修会となりました!

1/30(金)鈴木賢一先生を招聘して

道徳の飛び込み授業と校内研修会

合格祈願祭と同じ1月30日に、愛知県やとみ弥富市立じゅうしやまとうぶ十四山すずきけんいち東部小学校の鈴木賢一教諭を招いて、「道徳の飛び込み授業と校内研修会」を行いました。

1校時から5校時までの道徳授業や、校内研修時の様子を紹介します。

☆1校時(1年B組)
 「席をゆすったけれど」
 B-(6)思いやり、感謝



☆2校時(1年A組)
 「差別の根底にあるものは？」
 C-(11)公正、公平、社会主義



☆校内研修会
 15:00~16:45
 「道徳的価値の理解を深める道徳授業づくり ~本日の授業を振り返って~」

鈴木先生は、各学級の授業を振り返りながら、「下地中の子どもたちは、どの学級も意見を堂々と述べ、協力的で楽しく取り組めた。特に3年生は、小学校での飛び込み授業のことも覚えてくれていた」と褒めていただきました。また先生方に対しては、「今後も明確な『ねらい』のもと、授業づくりや研究を協働体制で推進し、子どもの良さをどんどん引き出してほしい」とお話ししていただきました!

【お知らせ】

☆「2月の生活目標」を確認しましょう。

「自己を反省し、充実した生活を送ろう」

- ・きまりをしっかり守ろう
- ・学習に力を入れよう
- ・学級のチームワーク(団結・協力)を高めよう





となん

【学校教育目標】

- [知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳] 豊かな心を持つ生徒
- [体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成



☆「QRコード」はデンソーウェブの登録商標です(下地中学校HPへ)

宮古新報文芸

「俳句」中学生部門で岩瀬夕由さん(2年生)が「特選」に輝く!



校庭のカンヒザクラの花が咲き始めたこの頃ですが、みだしの「宮古新報文芸『俳句』中学生部門」に、下地中学校では、岩瀬夕由さん(2年生)の作品が見事「特選」に輝きました!

早速、作品と選評を紹介します。

では、「佳作」入賞の3作品を紹介します。

中学生部門「佳作」

千鳥鳴き 冬の訪れ 皆が知る

下地中二年 神田 銅市

かじかんだ 手を温める

ココア缶

下地中二年 前泊 心和

歌が止む 静かな一分

除夜の鐘

下地中二年 奥平 絢音



どの作品も冬らしい「キリッとした冷たさ」や「ココア缶を手にした温もり」「静寂の中に聞こえてくる除夜の鐘の音」「冬の訪れを知らせるように遠くで鳴く千鳥」など、五感をくすぐる効果的な言葉を用いていると感じました(みなさんは、どう感じましたか)。

次に『「入選」(こうすれば佳作)』コーナーから、羽地愛美さん(2年生)の作品を紹介します。

中学生部門「入選」 こうすれば、「佳作」

寄鍋や家族団らん

あたたかさ

下地中二年 羽地 愛美

【アドバイス】皆で食べる寄せ鍋に心まで温まるようです。ただあたたかいは寄せ鍋の言葉の中で想像できるので少し言葉を変えてみます。

◎寄鍋や家族団らん

賑やかに

中学生部門「特選」 帰り道 遠くに見える冬の暮

下地中二年 岩瀬 夕由

【選評】山田 佳乃さん

冬の日暮れはとても遠く感じます。薄暗い帰り道が遠く感じる気持ちに共感します。もしかしたら、疲れて帰る道のりが遠くに感じるのかもかもしれません。「遠くに見える」という表現が詩的に感じます。



「遠くに見える」のは、「帰り道」「冬の暮」どちらなのでしょう(それとも両方なのでしょう)。作者に聞いてみないと分からないことですが、選者を引きつける詩的な表現が良かったのでしょうか!

特選に次ぐ「佳作」には、3作品が入賞しました(中学生の部「佳作」は3作品とも、下地中が占めました。すごいことですね)。

宮古新報文芸

「俳句」中学生部門で岩瀬夕由さん(2年生)が「特選」に輝く!

最後に、中学生部門「入選」の作品を紹介します。こちら、13作品のうち下地中学校から出品された作品が10作品を占めました(先ほど紹介した、羽地愛美さんの作品も含まれますよ)!



会えぬ友 笑う初夢 かなうかな
下地中一年 仲地 愛良

姉弟で 駆けてまわった ぼたん雪
除夜の鐘 夜に響くは 通知音
下地中二年 盛島 小百合

気がつけば 辺り一面 冬景色
下地中二年 米村 喜月

初日の出 一年の苦が 癒やされる
下地中二年 宮城 仁哉

夜明け前 静けさ 照らす 雪化粧
下地中二年 友利 翠月

ふと見ると 静かに 照らす 冬の月
下地中二年 仲里 心菜

暖まる 皆の手集う 囲炉裏かな
下地中二年 平良 星姫

初日の出 儂く染まる 茜色
下地中二年 仲里 奏

今回、盛島小百合さん(2年生)が2句「入選」しました。これもすごいことですね。おめでとうございます。

現在、暦の上では「節分(2月3日)」「立春(2月4日)」を迎えました。春の俳句の季語なら何を使いますか?

春の俳句を作るときは、まず「桜」「春雨」「鶯」など身近な季語を選び、その情景の中で心が動いた一瞬を捉えることが大切です。「五・七・五」のリズムで言葉を整え、描く場面を一つに絞ると印象がより鮮明になります。



また、よくある表現に頼らず、自分だけの視点や感じた光・音・温度を素直に入れることで句に個性が生まれます。何度も推敲し、春らしい空気が伝わる一句を目指しましょう。

参考として、春の季語を用いた有名な俳句を紹介します。

◎春の海 終日 のたりのたりかな【与謝 蕪村】



◎菜の花や 月は東に 日は西に
【与謝 蕪村】

◎行く春や 鳥啼き魚の 目は泪
【松尾 芭蕉】

◎目には青葉 山ほととぎす 初経【山口 素堂】

2/4(水)放課後

下地中学校区 小中連携合同定期総会



みだしの「下地中学校区小中連携合同定期総会」を、2月4日(水) 16:00 ~ 16:45 本校PC保管室で行いました。

内容は、本年度の小中連携の取組をアンケート結果をもとに振り返ったり、次年度の小中連携に向けた協議「今年度の取組と振り返りを踏まえ、次年度(持続可能な視点で)取組の成果を継続し、課題を解決していくために大切なことは？」などを行いました。

今後の小中連携にも期待してください。



となん

【学校教育目標】

- 【知】自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- 【徳】豊かな心を持つ生徒
- 【体】健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

**よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成**

発行者：校長 **崎山 用彰**



☆「QRコード」はデンソーウェブの登録商標です(下地中学校HPへ)

2/4(水) 未来創造センターで開催

宮古島市総合計画・総合戦略策定に係るワークショップ

生徒会役員の2年生5名が参加

2/4(水) 15:30 ~ 18:00、宮古島市未来創造センターを会場に「宮古島市総合計画・総合戦略策定に係るワークショップ」が行われ、本校からは生徒会役員の2年生5名が参加しました(中学生24名、高校生6名、合計30名が参加したそうです)。



このワークショップの目的は、「次期宮古島市総合計画の策定にあたって、若者目線の Well-Being、宮古島の将来のビジョンに関する意見について把握し、策定の参考とするため」だということです。

参加した生徒会役員の5名に感想を書いてもらったので、紹介していきます。

【生徒会長:友利 伸之介】

最初は緊張したけど、話をするにつれて緊張はどんどんほぐれていきました！そして、宮古島の現状を知りながら、今後の宮古島について話し合うことができとても良かったです。また、話し合いで同じグループになった高校生2人がいて、その方たちがグループをまとめてくれたので、話し合いがめっちゃくちゃ弾みました。それで2時間半もあっという間に感じました。このような体験ができて、良かったです。

【生徒会副会長:下地 瑛太】

最初は、緊張したけど、話していくうちに緊張も解けて仲良くなることができました。話し合った内容は宮古島のことについてでした。自分一人では考えられないことを、グループの皆さんから違う視点で聞くことができたので良かったです。

【生徒会副会長:奥平 絢音】

ワークショップでは、グループのみんなと話し合ったり、決まったことを最後に全員の前で発表したりしました。初めて会う人ばかりで、とても緊張したけど、高校生が話し合いを進めてくれたので、話し合いがスムーズに進みました。キャッチコピーを決めることが難しかったけど、協力してアイデアを出し、1つに決めることができました。宮古島の新しい発見や面白い意見が聞けたので、良かったです。

【生徒会企画委員:前泊 心和】

ワークショップでは、中学生だけでなく高校生もいて、私が考えられない視点で宮古島のことを考えていて、凄いいいと思いました。その中でも、「離島税」を徴収するという考えがすぐに出てきて、良く考えられていて凄いいいと思いました。私も一緒に深く考えることができ、嬉しかったです。観光客のことも、島民のことも考えると、大変だと思いました。緊張したけど、意見を交流できたりしたので良かったです。

【生徒会書記:松川 藍丸】

ワークショップでは、意見を皆で出し合っていて途中で、全然違う地域に住んでいるのに、困っていることは意外と同じだったので、宮古島って意外と狭いなと思いました。



翌日行った校長室での振り返りも含め、「なすことによって学ぶ」「百聞は一見に如かず」という言葉にもあるように、今回のワークショップに参加した5名の皆さんは、まさにその言葉通りの経験をしたと思います。多様な他者との対話の中で、新しい発見があり、仲間とのつながりも深まり、とても良い学びの時間になったと思います。ぜひ今後の生徒会活動に反映させていきましょう！